

スポーツ原論Ⅱ

科目ナンバリング SPS-104
選択必修 2単位

谷崎 敦彦

1. 授業の概要(ねらい)

スポーツは今日「世界共通の文化」と再定義されている。本講義では①スポーツ指導者を目指す者②スポーツ関連業界への就職を希望する者③今後プロスポーツ業界並びに関連業界に進出する者等が最低限習得すべき「スポーツの基本」を修得することを目的とする。「スポーツの基本」の中には「スポーツの起源」「スポーツの定義」「体育とスポーツとの違い」から「近代スポーツ発祥」を経て「近代五輪」「W-Cup開催」「2020年東京五輪」に至るまで「スポーツの発展・経緯・背景」等が含まれ、「スポーツ史」をそれぞれの時代背景と共に学ぶことよりスポーツを平易に理解する事を主眼とする。又近代スポーツの持つ「勝利至上主義」「スポーツ目的論・手段論」「ジェンダー問題」「健康とスポーツ」「日本と欧米とのスポーツ観の相違」などの種々問題についても理解を深める。日本の部活動現場から何故「暴力」が無くならないのか?これは日本特有のモノなのか? 新たに設立された「スポーツ庁」が2020年東京五輪に於ける「メダル獲得数」に言及するのは当然のことなのか?など卑近な例を用い学生のスポーツ理解度を高める指導を行う。

秋期においては スポーツ現場に働く有識者に講演を依頼し、学生との質疑応答の中から「スポーツ観」を養う試みを行う。 秋期履修の学生は春期からの継続が望ましい。また春期「D」判定の学生の秋期履修は原則認めないものとする。

2. 授業の到達目標

スポーツ全般に関する基礎的な知識を先ずは習得する。また、古代・中世から近代に至る世界史・経済史と連動して発展して来た近代スポーツの特性についてそれぞれの時代の特徴などとスポーツとの関連性を自分の言葉で説明出来ることを目標とする。また、明治時代に「概念」として輸入された「スポーツ」がその後日本人の身体・教育・思考にどのような影響を与えたのかを理解する。

3. 成績評価の方法および基準

出席: 7割以上の出席を前提とする。平常点として30点

レポート: 期中に2回の課題レポート提出 20点

期末試験: 50点満点(持ち込み不可)

以上を総合的に評価する。*期末テストは完全持ち込み不可とする故、単位取得の為には十分な予習・復習が必要となる。

4. 教科書・参考文献

教科書

岡野 進著 『概説スポーツ』

(創文企画)

参考文献は授業内に紹介します。

5. 準備学修の内容

自分の興味があるスポーツの起源を探って見る事。日本の「スポーツ観」と西欧の「スポーツ観」との違いを理解すること。テキストを時代毎に熟読すること。現在日本政府は国民の祝日「体育の日」を「スポーツの日」と改める検討を始めている。この背景は何か?どちらが相応しい呼称なのか?他者に自分の言葉で述べられること目指してください。

6. その他履修上の注意事項

本年度は「2020東京五輪」が開催される。本講義では今一度「スポーツ」とは自分にとってどのような価値を持つのか?「オリンピック」「ワールドカップ」などのビッグイベントが近代に開催されるに至った背景・歴史・意義などを学生一人一人に問題意識を持って欲しい。また、昨年来 日本の伝統的スポーツ「大相撲」や「体操」「レスリング」に於いて「暴力」「パワハラ」が話題となっている。何故日本人のスポーツには「暴力」「パワハラ」などが内包化されるのかその真意を学んで欲しい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-----------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス、授業の進め方、評価方法、留意点 |
| 【第2回】 | 前期の振り返り |
| 【第3回】 | スポーツの近代化・大衆化 |
| 【第4回】 | 近代オリンピックの発祥 |
| 【第5回】 | スポーツと国家 |
| 【第6回】 | スポーツに於けるアマチュアリズム思想 |
| 【第7回】 | アマチュアリズムの崩壊と商業五輪 |
| 【第8回】 | スポーツ有識者による講演 |
| 【第9回】 | プロスポーツの出現 |
| 【第10回】 | スポーツマンシップと人間形成 |
| 【第11回】 | スポーツと遊び |
| 【第12回】 | スポーツ手段論・目的論 |
| 【第13回】 | スポーツ実務者よりの講演 |
| 【第14回】 | スポーツと健康 |
| 【第15回】 | 後期の締めとテスト |